

2017年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：医療 ICT と在宅連携のための標準看護マスタのモデル研究会

設置期間：2015年5月～2019年3月

代表幹事の氏名・所属：宇都由美子（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科）

幹事の氏名・所属：兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科	石垣 恭子
神戸市立医療センター中央市民病院看護部	伊藤 明美
国立看護大学校	柏木 公一
長崎大学病院看護部医療情報部	岡田みずほ
県立広島病院看護部	須原麻砂江
医療法人近森会近森病院	永野 智恵
医療情報システム開発センター	前田 直美
熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門	松本 智晴
N T T東日本関東病院	村岡 修子
園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科	高見 美樹

活動成果の概要：

1. 奄美大島におけるフィールド調査

1) 日 時：2018年3月4日～3月6日

2) 場所および調査内容：

- (1) 瀬戸内町役場ー地域における活動の実際と記録について
- (2) 瀬戸内町へき地診療所ー①看護記録一式について、②看護計画の立案、③地域の他の医療機関や施設に情報提供する際の看護記録の様式と運用方法について
- (3) いづはら医院ー①看護記録一式について、②看護計画の立案、③地域の他の医療機関や施設に情報提供する際の看護記録の様式と運用方法について
- (4) 瀬戸内町包括支援センターー①利用者の記録について、②他の医療機関や介護施設等との連携に関する記録等について
- (5) 奄美の園指定通所介護事業所ー①ケアプランに関する記録一式、②他の医療機関や介護施設等との連携に関する記録等について
- (6) 医療法人馨和会デイサービスセンターつむぎー①通所介護施設で利用している記録一式、②他の医療機関や介護施設等との連携に関する記録等について

3) 成 果：

人口1万人弱の自治体において、行政をはじめ医療機関から診療所、包括支援センター、介護施設に至るまでの医療情報と介護情報の流れ、さらに、それらの相互利用に関する運用方法について、資料収集と共に詳細に調査することができた。

2. 学会における成果発表

1) 第18回日本医療情報学会看護学術大会

2017年6月30日(金)～7月1日(土)、かごしま県民交流センター

ワークショップ1：看護の専門性を支える看護マスタを目指して

<オーダナイザー>宇都由美子(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科)

<座長>岡田みずほ(長崎大学病院)

<演者>

- i. 宇都由美子(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科)
- ii. 永野 智恵(社会医療法人近森会近森病院看護部)
- iii. 村岡 修子(N T T東日本関東病院)
- iv. 柏木 公一(国立看護大学校)

<企画趣旨>

看護の専門性を基盤とするケアマスタの開発、マスタを共通化して利用できる情報システムの仕組みについて話題提供する。すなわち、「看護」の見える化のためには、アセスメントの視点をいかに看護マスタの要素として組み込むかが大切である。事例の検討を通じて、日々の看護実践行為とアセスメントの関連性を構造化して蓄積していく方法論と、それらの活用法について討論した。

2) 第37回医療情報学連合大会(第18回日本医療情報学会学術大会)

2017年11月20日(月)～23日(木・祝)、グランキューブ大阪

公募企画シンポジウム18：看護の専門性を基盤とするケアマスタの開発とその運用

<オーダナイザー>宇都由美子(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科)

<座長>宇都由美子(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科)

石垣 恭子(兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科)

<演者>

- v. 宇都由美子(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科)
- vi. 岡田みずほ(長崎大学病院)
- vii. 村岡 修子(N T T東日本関東病院)
- viii. 前田 直美(医療情報システム開発センター)
- ix. 伊藤 明美(神戸市立医療センター中央市民病院)
- x. 柏木 公一(国立看護大学校)

<企画趣旨>

電子カルテの開発、普及は、診療記録の役割と可能性を大きく変えた。チーム医療の推進や患者との情報共有の有効なツールとして、医療従事者のみならず国民からも大きな期待が寄せられている。我々は電子カルテをはじめとする医療 ICT を利用して、看護の専門性に裏づけられた高度な判断や情報提供を行っていききたいと切に願っている。そのために不可欠なアセスメント重視のケア計画マスタの実現のために、本シンポジウムで忌憚のない意見交換ができることを企図して開催した。

3. 活動成果の発表：

[学会発表] 計 7 件

- ①宇都由美子、石垣恭子、岡田みずほ、村岡修子、前田直美、伊藤明美、柏木公一：
看護の専門性に裏づけられた高度な判断や情報提供を支援するアセスメント重視のケア計画マスタの実現、第 37 回医療情報学連合大会論文集、283-284、2017.
- ②岡田みずほ、西口真由美、後田実知子、中村裕子、松尾理香子、小淵美樹子、松本武浩、貞方三枝子：患者と共有する看護計画はどう表現するべきかー患者参画型看護計画立案方式の導入経緯と現状ー、第 37 回医療情報学連合大会論文集、285-287、2017.
- ③村岡修子：多職種連携のための記録ー患者問題と治療・ケア計画の共有のためにー第 37 回医療情報学連合大会論文集、288-289、2017.
- ④前田直美：看護の専門性を基盤とするケアマスタの開発とその活用ー多職種連携のための記録に利用される看護用語のあり方ー、第 37 回医療情報学連合大会論文集、290-291、2017.
- ⑤伊藤明美、中西寛子：看護マスタを活用するための院内教育とその課題、第 37 回医療情報学連合大会論文集、292-296、2017.
- ⑥宇都由美子、花原康代、岩穴口孝、村永文学、落合美智子、市村カツ子、熊本一朗：
ケアの実施データの二次利用による持続可能なケア計画の見直しツールの開発とその評価、第 37 回医療情報学連合大会論文集、695-697、2017.
- ⑦宇都由美子、花原康代、岩穴口孝、村永文学、落合美智子、市村カツ子、熊本一朗：
ケアの実施データの二次利用による持続可能な看護計画の見直しツールの開発、第 18 回日本医療情報学会看護学術大会論文集、63-66、2017.